

# 教育センター研修だより

南砺市教育センター



## 特別支援教育研修会

下記の通り、砺波地区の幼稚園、保育園、認定こども園、小中学校の先生方を対象に、特別支援教育研修会を実施しました。

- |       |   |
|-------|---|
| 1 日時  | 平成30年8月3日（金） 14：30～16：30  |
| 2 会場  | 南砺市地域包括ケアセンター 2階多目的研修室  |
| 3 講師  | 厚生連 高岡病院 小児科診療部長 窪田 博道 先生   |
| 4 参加者 | 56名<br>・南砺市 22名（小学校教諭12名 中学校教諭7名 学校関係3名）<br>・砺波市 17名（小学校教諭11名 中学校教諭3名 幼・保教諭等3名）<br>・小矢部市17名（小学校教諭12名 中学校教諭5名） |
| 5 内容  | 医療から見た特別支援教育  |

### 【研修会の内容】

#### Take Home Message 1

・傾聴する、共感する、受容する。  
（ラ・ポール形成）

**大事**

・距離をおく。（評価しない、領域をおかさない）

・無条件のレスペクトをする。  
（LET IT GO ではなく LET IT BE）



あいづちを打つ。「そっか。そっか。」と共感する。  
とにかく「傾聴」する。 自分の意見は言わない。

「生きているだけで 素晴らしい」という考え方をもつ。

子供が心身症の保護者は、罪悪感を覚えている。  
味方になり、話を聴いてあげる。「よくやっていますね」と言って、保護者の努力を賞賛する。

#### Take Home Message 2

・不登校とは、行きたいのに行けない状態をいう。

・身体症状は、言葉にできない**SOS**である。  
あるいは身体疾患である。

・現状維持でOK、引きこもり対策はない。

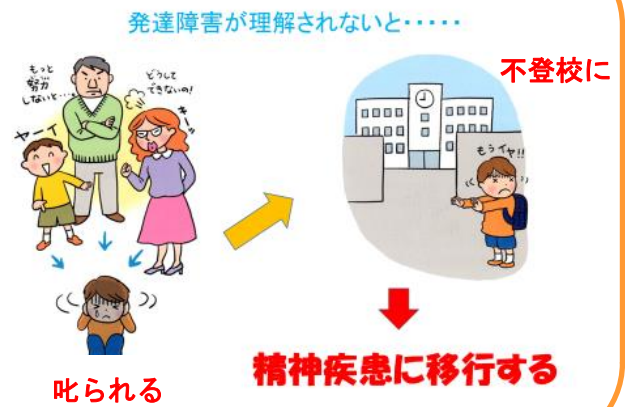
不登校は、夏休み後、注意する必要がある。  
データとして、10歳、12～14歳に多い。

変化のない時期を耐えることが必要である。  
粘って様子を見る。  
家庭生活が安定しない時期は、登校を促すのをやめ、「生活リズムの改善」を図る。

### Take Home Message 3

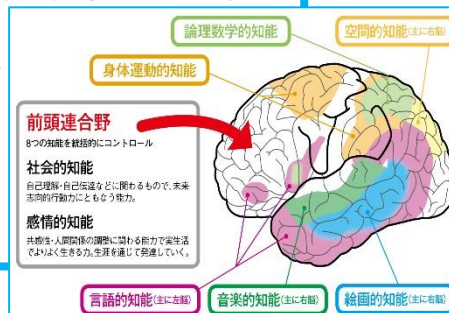
- 発達障害とは、独特の**特性**を有しており、学校や社会で**適応行動できず**に困っている場合の名称である。
- 特性を理解**して対応することが大切である。  
(感覚過敏や変化に弱いことも含める。)
- 原因として**虐待**があり、合併症として**二次障害**に要注意しなければならない。

### 例えば



### Take Home Message 4

- 心は、体の感覚を基にした「知情意」である。
- 人間らしさは、新しい脳の**前頭連合野**で生まれる。
- 幼児期の遊び、様々な体験、愛情をかけた療育が**前頭連合野**を育てる。
- 「だめなことはだめ」と、幼少時期にしっかりと教えておく。



「やわらかい」  
「すべすべ」等

特に、「触る」感覚が大切なので、様々なものに触る経験を積むようにする。

人間は、楽しい生活をしようとするための欲求をもっている。それがうまくいかないと、「イライラキレる」状態になる。

### 参加者の感想より

- 特別支援学級に在籍している子供だけではなく、通常学級に在籍している子供についても、その子供を理解共感し、できるところから支援や指導をしていきたいと思った。特に、不登校の子供については、家庭生活を安定させることを第一に、学校だけではなく、医療機関と協力して取り組んでいきたいと思う。些細な変化や、よくなっていることを保護者と共有しながら少しでも前向きに取り組めるよう努力したい。
- お話を聞きながら、何人もクラスの子供の顔が浮かんだ。子供に温かく寄り添い、一人一人の特性を理解し、その子供に合った支援をしていく必要性を改めて強く思った。目に見える言動だけを見るのではなく、その子供の背景にあるものを見据えて、2学期からも支援・指導を工夫したい。
- 特に、心理社会面への対応が勉強になった。養護教諭として話しやすい雰囲気づくりをまずつくってきたいと思った。子供との信頼関係を築くことができるよう、まずは上手な聞き役になりたいと思った。
- 不登校児の対応が聞けてよかった。力づくではないのだと、改めて気付かされた。「現状維持＝前進」は、励まされる言葉だった。
- 担任している子供たちの顔を思い浮かべながら話を聞いていると、それぞれの困り感を把握し、対応の仕方を丁寧に考えていく必要があると思った。子供たちが元気に楽しく成長していけるように、私自身の学びも深めていかなければならないと改めて感じた。今後の保育に生かしていきたいと、仕事に対する意欲が高まる時間となった。

キレない、暴力的にならないために

**「ならぬことは、ならぬ！」**  
を  
幼少時期に教え込んでおく

できるだけ 沢山のよい経験をjする＝心の栄養

